Canon

ファミリーコピア

# FC 520
# FC 500

## ご愛用の手引き

ご使用前に、必ずこのご愛用の手引きをお読みください。
お読みになった後も、大切に保管してください。

JPN

この裏面がA4:4%標準原稿になっています。

# はじめに

このたびはキヤノンの複写機をお買い上げいただき誠にありがとうございました。本機はトナーや感光ドラムを一体化したキヤノン独自のカートリッジの採用により高画質とともに定期点検不要のイージーメンテナンスとなっております。

このご愛用の手引きには本機の機能と操作方法、および使用上の注意について記載してあります。
本機の機能を十分にご理解いただき、より効果的にご利用いただくために、ご使用の前にこのご愛用の手引きをよくお読みください。

● このご愛用の手引きの中で⚠と表記されている事項は安全にご使用いただくための注意です。
ご愛用の手引きの指示を必ずお守りください。

# おことわり

● 機械の改良変更等により、仕様面において本書の記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。
本書の内容は万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点や誤りまたは記載洩れなどお気づきのことがありましたら、ご連絡ください。

このページは、4%標準原稿です。

■ 本書内のマークについて

**警告**

取扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う恐れのある警告事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。

**注意**

取扱いを誤った場合に、傷害を負う恐れや物的損害が発生する恐れのある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。

**お願い**

操作上必ず守っていただきたい重要事項や禁止事項が書かれています。機械の故障や損傷を防ぐために、必ずお読みください。

**重要**

操作上の重要事項や禁止事項などが書かれています。誤った操作をしないために、必ずお読みください。

操作の参考となることや補足事項が書かれています。お読みになることをおすすめします。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
本書に従って正しい取り扱いをしてください。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。
国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

## 第１章　お使いになる前に



## 第２章　コピーのとりかた



## 第３章　こんなときには



## 付録

# 1章

# お使いになる前に

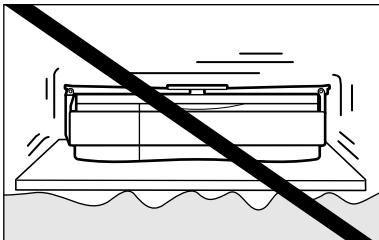
#  安全にお使いいただくために

## 設置について

### 警告

・ アルコール、シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しないでください。引火性溶剤が機械内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。

### 注意

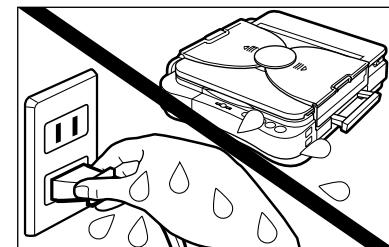
・ ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所や振動の多い場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

・ 機械には通気口がありますので、壁や物でふさがないように設置してください。必ず壁から10cm以上離してください。通気口をふさがれると機械内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

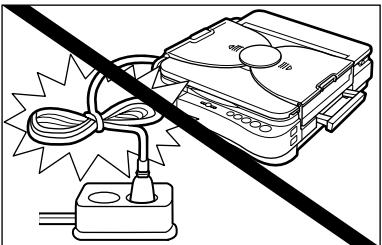
・ 機械の上に次のような物を置かないでください。これらが機械内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になることがあります。
  ・ ネックレスなどの金属物
  ・ コップ、花瓶、植木鉢など、水や液体が入った容器

  これらが機械内部に入った場合は、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い求めの販売店または担当サービスに連絡してください。
・ 機械の上に重い物をのせないでください。置いたものが倒れたり、落ちてけがの原因となることがあります。
・ 機械を次のような場所に設置しないでください。
  火災や感電の原因になることがあります。
  ・湿気やほこりの多い場所
  ・直射日光のあたる場所
  ・高温の場所
  ・火気に近い場所

## 電源について

### 警告

・ 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、電源コードをひっぱったり、無理に曲げたりしないでください。傷ついた部分から漏電して、火災や感電の原因になります。
・ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
  感電の原因になります。

・ タコ足配線は行わないでください。
  火災や感電の原因になります。

・ 電源コードを束ねたり、結んだりしないでください。
火災や感電の原因になります。

・ 電源プラグはコンセントの奥までしっかりと差し込んでください。しっかりと差し込まないと、火災や感電の原因になります。
・ 同梱されている電源コード以外は使用しないでください。火災や感電の原因になります。
・ 原則的に延長コードは使用しないでください。また、延長コードの多重配線はしないでください。火災や感電の原因になることがあります。やむを得ず延長コードを使用する場合は、100V 7A以上のものを使用してください。使用時は束ねをほどき、電源コードと延長コードの接続が確実になるように奥まで電源プラグを差し込んでください。
・ アース線を接続するときは、以下の点にご注意ください。

[アース線を接続してよいもの]
・コンセントのアース端子
・接地工事（第1種〜第3種）が行われているアース端子
・銅棒65cm以上地中に埋めたもの

[アース線を接続してはいけないもの]
・水道管...... 配管の途中でプラスチックになっている場合があり、その場合にはアースの役目を果たしません。ただし、水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線を接続できます。
・ガス管...... ガス爆発や火災の原因になります。
・電話線のアースや避雷針 ......... 落雷のときに大きな電流が流れ、火災や感電の原因になります。

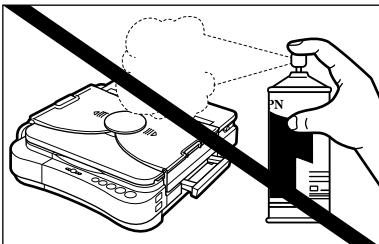
## ⚠注意

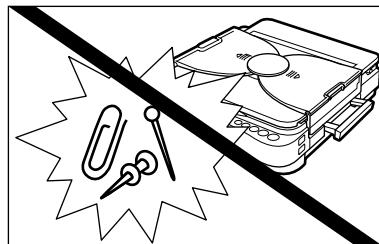
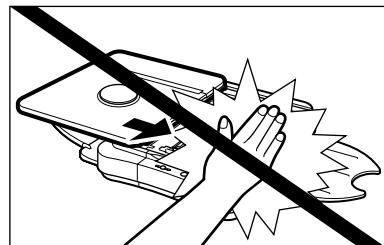
・ AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。
火災や感電の原因になることがあります。
・ 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っぱると、電源コードの芯線の露出、断線など電源コードが傷つき、その部分から漏電して、火災や感電の原因になることがあります。
・ いつでも電源プラグが抜けるように、電源プラグのまわりには物を置かないでください。非常時に電源プラグを抜けなくなります。
・ アース線を接続してください。アース線を接続しないで万一漏電した場合は、火災や感電の原因になることがあります。

## 取扱いについて

### 警告

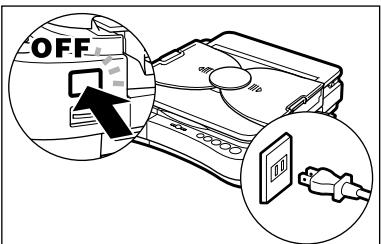
・ 機械を分解したり、改造しないでください。内部には高温･高圧の部分があり、火災や感電の原因になります。
・ 異常な音がしたり、煙が出たり、熱が出たり、変なにおいがした場合は、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜き、お買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
・ 機械の近くでは、可燃性のスプレーなどは使用しないでください。
スプレーのガスが機械内部の電子部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。

・ 機械を移動させる場合は、必ず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください。
電源コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

### 注意

・ 機械内部にクリップやホッチキスの針などの金属片を落とさないでください。また、水、液体や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）をこぼさないでください。これらが機械内部の電気部品に接触すると、火災や感電の原因になることがあります。これらが機械内部に入った場合は、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い求めの販売店または担当サービスにご連絡ください。

・ 原稿台カバーは、手を挟まないように静かに閉じてください。けがの原因になることがあります。（→ P.26）
・ 原稿台よりも大きな原稿をコピーする場合は、原稿のはみ出した部分にご注意ください。原稿が機械の一部に引っかかって破損する恐れがあります。
・ コピー中は原稿台部分に触れないでください。移動している原稿台に挟まれて、けがの原因になることがあります。

・ 夜間等で長時間ご使用にならない場合は、安全のため電源スイッチを切ってください。
また、連休等で長期間ご使用にならない場合は、安全のため電源プラグを抜いてください。
・ 機械を持ち運ぶときは、指定された場所を持ってください。機械を落として、けがの原因になることがあります。

## 保守／点検について

### 警告

- 清掃のときは、電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。（→P.44）

- 清掃のときは、中性洗剤を含ませて固く絞った布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が機械内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。（→P.55）
- 使用済みカートリッジを火中に投じないでください。カートリッジ内に残ったトナーに引火して、やけどや火災の原因になります。

### 注意

- 機械内部には定着器など高温、高圧になる部分があります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、これらの部分に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になることがあります。（→P.42）
- 紙づまりの処理など内部を点検するときは、ネックレス、ブレスレットなどの金属物が機械内部に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になることがあります。
- 紙づまりでコピー用紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしているコピー用紙の上にのっているトナーが衣服や手に触れないように取り除いてください。衣服や手が汚れます。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、よごれがとれなくなることがあります。
- 紙づまりでコピー用紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしているコピー用紙の上にのっているトナーが飛び散らないように、丁寧に取り除いてください。トナーが目や口などに入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。
- コピー用紙を補給するとき、原稿づまりや紙づまりを取り除くときは、原稿やコピー用紙の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。

## 消耗品について

### 警告

- カートリッジを火中に投じないでください。カートリッジ内部にあるトナーに引火して、カートリッジが燃えて、やけどや火災の原因になります。
- カートリッジ、コピー用紙は火気のある場所に保管しないでください。トナーやコピー用紙に引火して、やけどや火災の原因になります。

### 注意

- カートリッジなどの消耗品は幼児の手が届かないところへ保管してください。もしカートリッジ内のトナーを飲んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

# 取扱い上の注意

## 原稿台の取扱い

・ 原稿台の上に原稿以外のものを置いたり、原稿台を強く押さえつけたりしないでください。
・ 原稿台の許容荷重は、2kg（約1,500ページの電話帳1冊分）までです。

## 本体の取扱い

・ 本体内部にクリップやホッチキスの針などの金属片を落とさないでください。また、水や引火性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナーなど）をこぼさないでください。これらが機械内部の電気部品に接触すると、火災や感電、製品の故障の原因となる恐れがあります。
・ 注油はしないでください。
・ 機械の近くでは強燃性スプレーのりなどは使用しないでください。引火の危険性があります。

## ご使用後の保管方法

・ カートリッジの交換や紙づまりの処理などで本体を開いたときは、そのままの状態で放置せずに、原稿台を中央に戻してください。
・ カバーなどは、電源スイッチを切り、本体が冷えてからかけてください。
・ 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

## 立てて保管するとき

・ 本体を立てておくときは、電源スイッチを切り、本体が冷えてからキャリングハンドルを上にして、倒れないように保管してください。
・ 立てておいた機械を使用するときは、右端、左端、中央の順に原稿台を手で移動したあとコピーしてください。

## 結露（露付き）について

寒い戸外から暖かい部屋に複写機を持ち込んだり、部屋を急に暖めると、複写機内部に水滴がつき（結露現象）、コピー画像に支障をきたすことがあります。そのときは、本機を室温に2時間以上放置して、充分になじませてからご使用ください。

■ 万一、異常な音がしたり煙が出たりしたときは、直ちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買い求めの販売店またはサービス店にご相談ください。

# 設置場所について

**本機の設置場所には、次の条件を満たす場所を選んでください。**

## 直射日光の当たらない涼しいところ

日光の当たる窓際や、ストーブ／加湿器の前など、高温多湿になるところには置かないでください。
また、暖房などによる急激な温度や湿度の変化は避けてください。

■ **望ましい使用環境**

温度　15℃～27℃
湿度　25%～75%

本機を寒い場所に放置した場合は、画像に影響が出る場合がありますので、本機を室温に２時間以上放置し、充分になじませてから使用してください。

## 設置スペースにゆとりのあるところ

本機は原稿台を移動させてコピーするタイプの複写機です。このため、設置するときには充分なスペースを確保してください。

■ **コピー操作をするために必要なスペース（幅×奥行）**

FC520　81.3 cm 以上× 43.9 cm 以上
FC500　63.9 cm 以上× 43.9 cm 以上

## 換気のよいところ

ホコリの多い場所や、アンモニアガスなどの発生する場所は避けてください。

## 水平なところ

段差のない水平な場所に置いてください。

## テレビ／ラジオなどから離れたところ

テレビ／ラジオなどの近くに設置すると、雑音やチラツキなどの受信障害が出ることがあります。電源を別にして、できるだけ離れた場所に設置してください。

## 電源について

・ 電源プラグは 100V 7A 以上の専用コンセントに直接接続してください。
・ タコ足配線はしないでください。
・ 電源コードの上には何ものせないでください。

■ 万一、異常な音がしたり煙が出たりしたときは、直ちにコンセントから電源プラグを抜き、お買い求めの販売店またはサービス店にご連絡ください。また、いつでも引き抜けるように、電源プラグのまわりには物を置かないようにしてください。

## アース線について

・ 感電防止のため、アース線を接続してください。
・ アース線はコンセントのアース端子か接地工事（第１種～第３種）が行われている接地端子に接続してください。

■ **アース線を接続してはいけないもの**

・ ガス管……　引火、爆発の危険があります。
・ 水道管……　配管の途中がプラスチックになっているときは、アースの役目をしません。ただし、水道局がアース対象物として許可した水道管にはアース線が接続できます。
・ 電話のアースや避雷針…落雷のときに大きな電流が流れ危険です。

# コピーが禁止されているもの

法律によりコピーが禁止されているものがあります。また単に不正なコピーを所有するだけでも罰せられることがありますので十分に注意してください。

## 法律で禁止されているもの

- 紙幣、貨幣、政府発行の有価証券、国債証券、地方債証券をコピーすることは禁止されています。たとえ、見本の印が押してあってもコピーすることはできません。
- 外国において流通する紙幣、貨幣、証券類のコピーも禁止されています。
- 政府の許可をとらない限り、未使用郵便切手、官製はがきの類をコピーすることは禁止されています。

## 注意を要するもの

- 民間発行の有価証券、（株券、手形、小切手など）、定期券、回数券などは、事業会社が業務に供するための最低必要部数をコピーする以外は、政府の指導により注意を呼びかけられています。
- 政府発行のパスポート、公共機関や民間団体発行の免許証、許可証、身分証明書や通行券、食券などの切符類も許可なしにコピーしないでください。

[関係法律]
- 刑法
- 通貨及証券模造取締法
- 外国二於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造二関スル法律
- 郵便法
- 郵便切手類模造等取締法
- 印紙犯罪処罰法
- 印紙等模造取締法

## 著作権の目的となっているもの

- 書類、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真などの著作物は、個人的に、または家庭内、その他これに準ずる限られた範囲で使用する以外はコピーを禁じられています。

# 運ぶときには

本機を運ぶときには、次のことに注意してください。

- 運ぶ前には必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 持ち運びのときは、電源コードをきちんと束ねて引きずらないようにしてください。
- 長距離輸送などで複写機が大きく振動する恐れがあるときは、本体からカートリッジを抜いてください。
- 運搬後に本機を使用するときは、右端、左端、中央の順に原稿台を手で移動したあとコピーしてください。

## ハンドルを持って運ぶとき

FC520

トレイを折りたたみ、原稿台カバーとディスク間にトレイをはめ込んでから、キャリングハンドルを引き出します。
⇒P.13「各部の名称とはたらき」

FC500

給紙口の蓋をして、排紙トレイ（オプション）を折りたたみます。次に原稿台カバーとディスクの間に排紙トレイをはめ込んでから、キャリングハンドルを引き出します。
⇒P.13「各部の名称とはたらき」

＊図は FC520 の場合です。

**キャリングハンドルをつかんでゆっくりと本体を起こし、持ち上げます。**

本体を傾けると原稿台は自動的に固定されます。

### お願い

- 原稿台カバーとディスク間にトレイ（FC500 排紙トレイ（オプション））が正しくセットされているか確認してください。
- 長時間持ち運ぶときは、原稿台をテープなどで止めてください。
- 振動や衝撃を避け、静かに運んでください。
- 運搬中にいったん機械を置くときは、キャリングハンドルを上にして水平で安定したところに静かに置いてください。
- 機械を水平状態（設置状態）に戻すときは、静かに寝かせてください。

参考

- トレイのツメは原稿台カバーの穴にすべてはめてください。トレイの角を押すと、ツメが入りやすくなります。
- トレイのツメが原稿台カバーの穴に確実にはまっているのを確認してください。

## 水平にしたまま運ぶとき

テープなどで原稿台が動かないように固定します。

キャリングハンドルを元の位置に戻し、給紙トレイ（FC500は手差しトレイ）、排紙トレイ（FC500はオプション）を折りたたみます。

原稿台カバーとディスク間にトレイ（FC500排紙トレイ（オプション））をはめ込んでください。

本体の両端をしっかりつかんで持ち上げます。

### お願い

・ 給紙口、排紙口、給紙トレイ（FC500は手差しトレイ）、排紙トレイ（FC500オプション）には手をかけないでください。運搬途中にトレイがはずれることがあり、危険です。

・ 機械が水平状態のときは、原稿台は固定されません。

## 自動車などで運ぶとき

車内の安定したところ（座席上）に置いてください。

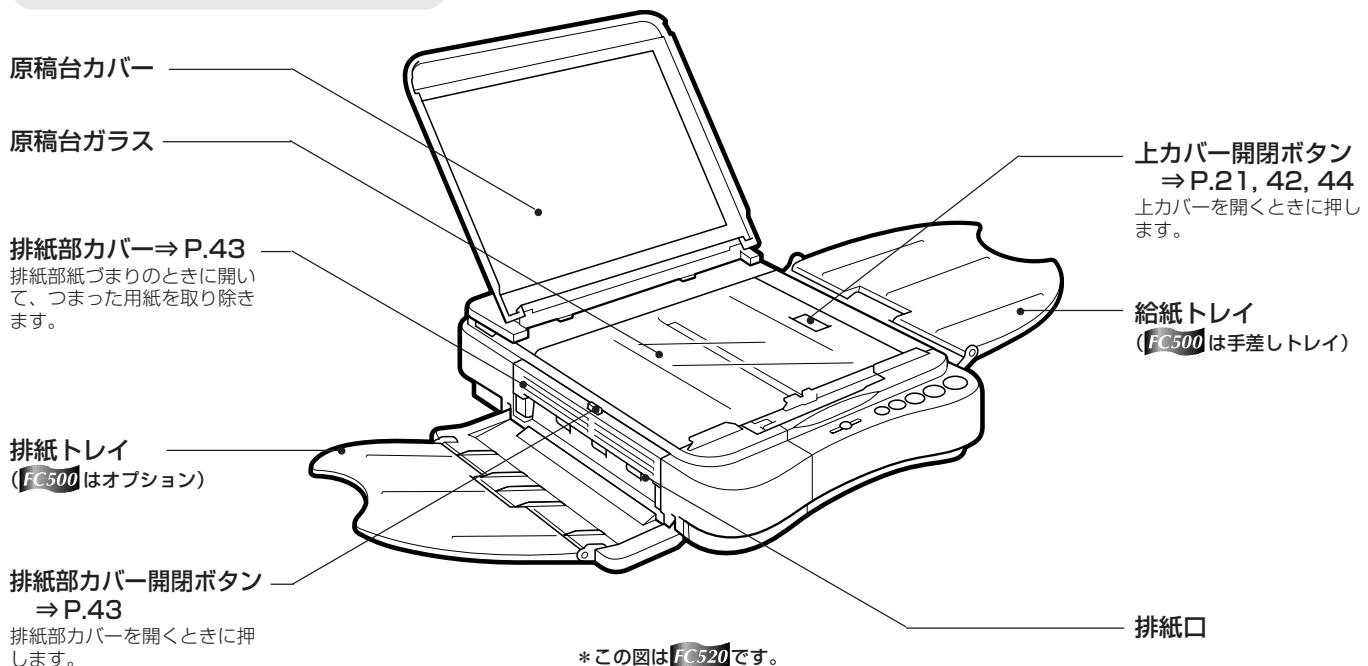
### お願い

・ 原稿台をテープで固定して箱に入れ、梱包してください（本体が入っていた箱を保管しておくことをおすすめします）。また、その際本体とカートリッジは別々に梱包してください。
・ 車内は想像以上に高温または低温になることがあるので、長時間置いたままにしないでください。
・ 悪路走行などによる激しい振動は避けてください。
・ 直射日光が当たらないようにしてください。

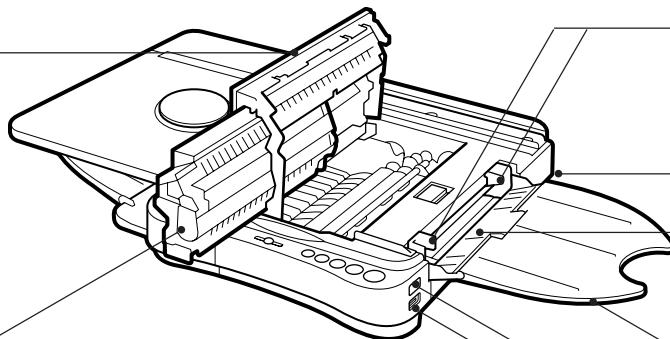
# 各部の名称とはたらき

FC520は給紙トレイに複数枚の用紙を一度にセット、FC500は１枚ずつ用紙をセットするタイプです。

## 本体外観

＊この図はFC520です。

**上カバー**
カートリッジの交換が必要なとき、紙づまりのとき、給紙ローラーの清掃のときなどに開けます。

**カートリッジ**
コピーをとるために必要なトナーが入っています。本機を使い始めるとき、トナーがなくなったとき、カラーカートリッジをご使用になるときなどに、セットまたは交換します。

**開封シールつまみ**

**排紙トレイ**
（FC500はオプション）

**給紙ガイド**
使用する用紙の幅に合わせてスライドさせます。

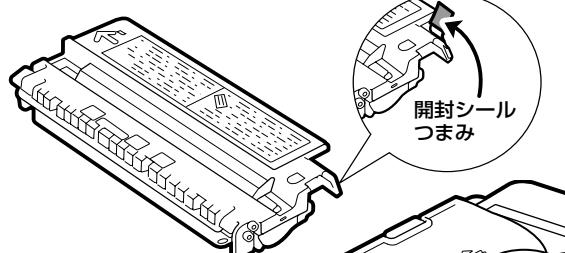
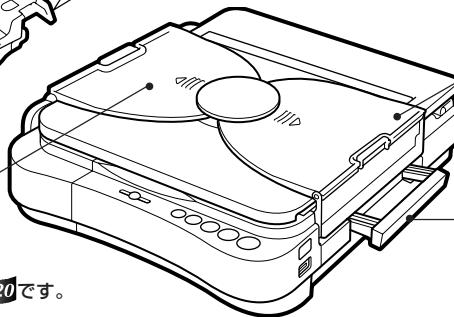
**アース端子(本体右奥)**

**給紙口**

**給紙トレイ**
（FC500は手差しトレイ）

**電源スイッチ**

**［濃度補正］スイッチ**
（FC520のみ）
コピー濃度(オート濃度モード、マニュアル濃度モード)を3段階(▲:濃い、•:普通、▽:薄い)に設定できます。

**給紙トレイ**
（FC520のみ）

**キャリングハンドル**
本機を持ち運ぶときに引き出します。

＊この図はFC520です。

## 操作パネル

FC520

エラー表示内容
P：紙送り点検／紙補給
8∿：紙づまり
EとZ：エラー点検
Eと6：エラー点検
Eと9：エラー点検

**［コピー枚数］表示**
コピーする枚数や、エラーが発生したときにその内容が表示されます。

**［オート濃度］表示**
オート濃度モードが設定されているときに点灯します。

**［コピー濃度調整］レバー**
オート濃度モードがオフのときにコピーの濃さを手動で設定できます。右に動かすと濃くなり、左に動かすと薄くなります。

**［オート濃度］キー**
オート濃度モード（コピーするときの濃さを自動的に調整するモード）を設定／解除できます。［コピー濃度調整］ダイヤルで濃さを調整するときは、このキーをオフにします。

**［紙づまり］表示**
本体内にコピー用紙がつまると点滅します。

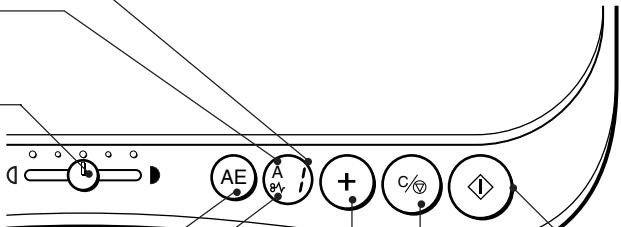
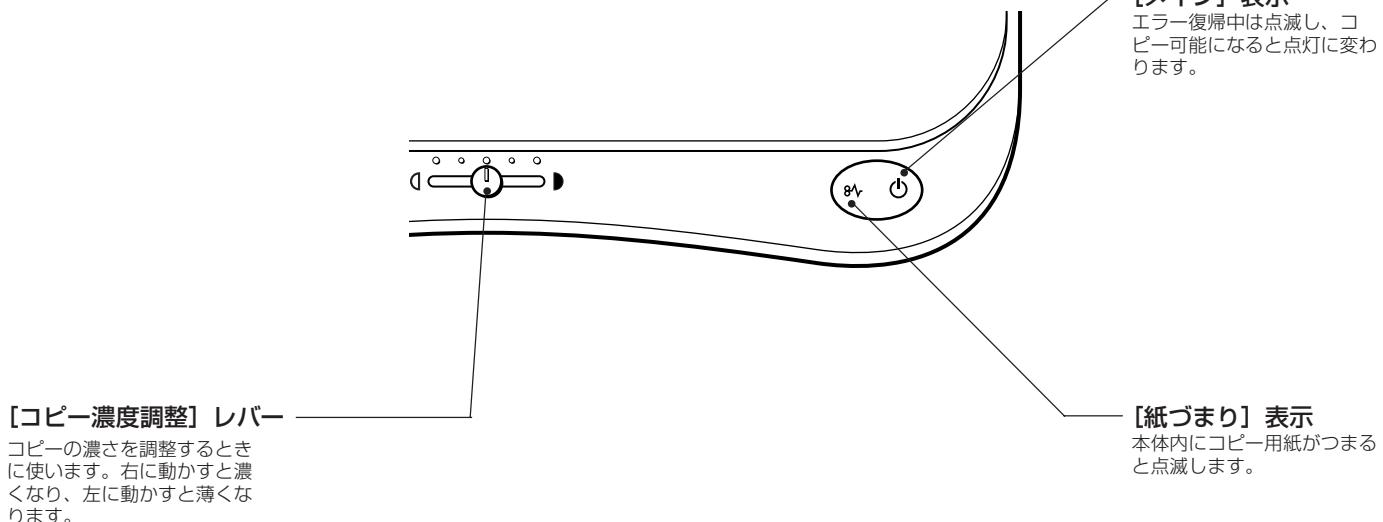
**［枚数］キー**
コピーする枚数を設定します。

**［取消し／中止］キー**
コピー枚数の設定を 1 に戻したり、連続コピーを途中で中止します。

**［コピー］キー**
コピーを開始するときに押します。

［メイン］表示
エラー復帰中は点滅し、コピー可能になると点灯に変わります。

［コピー濃度調整］レバー
コピーの濃さを調整するときに使います。右に動かすと濃くなり、左に動かすと薄くなります。

［紙づまり］表示
本体内にコピー用紙がつまると点滅します。

# 設置のしかた

## 梱包内容の確認

外装箱から本体および付属品を取り出して、付属品がすべて揃っているか確認してください。

| 付属品名 | 個数 | チェック欄 |
|---|---|---|
| 保証書 | 1 冊 | |
| アース線 | 1 本 | |
| カートリッジ（本体内にあります） | 1 個 | |
| ご愛用の手引き（本書） | 1 冊 | |

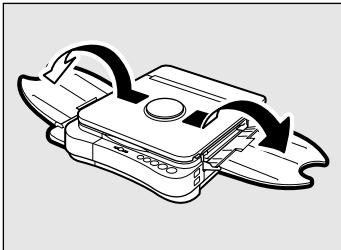
## 設置の手順

コピーをとる前には、電源プラグやアース線を接続する場所を確認してから、次の手順にしたがって接続してください。

なおカートリッジはあらかじめ本体内に入っていますが、開封シールを引き抜かなければ使用することはできません。

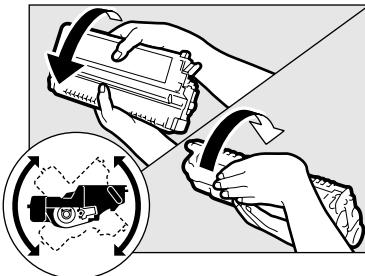
⇒P.9「設置場所について」、
P.21「カートリッジの交換」

本体を袋から取り出して、各部を止めているテープをはがします。

**FC520**
折りたたまれてる排紙トレイと給紙トレイを少しスライドさせてロックを外し、両トレイを水平な位置まで静かに開きます。

**FC500**
手差しトレイ（給紙口の蓋）を開き、折りたたまれてる排紙トレイ（オプション）少しスライドさせてロックを外し、トレイを水平な位置まで静かに開きます。

原稿台を左にスライドさせたあと、上カバーを開き、カートリッジを本体から取り出します。⇒P.21「カートリッジの交換」

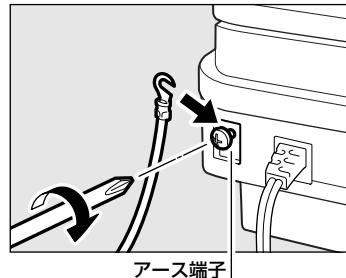
注意書き面を上にして水平に持ちます。

90度くらいずつ左右に数回回転させるように傾けて、カートリッジ内のトナーの片寄りをなくします。

開封シールを引き抜きます。
⇒P.21「カートリッジの交換」

カートリッジを再びセットします。

上カバーのマークを押して確実に閉じます。

原稿台を中央に戻します。

アース線を本体裏側にあるアース線端子に接続します。

電源プラグをコンセントに差し込みます。

**警告**

- 引火や爆発の危険がありますので、アース線をガス管には絶対に接続しないでください。
- 電源は必ず100V 7A以上の専用コンセントに接続してください。

**重要**

- 本機を気温の低いところから高いところへ持ち込むと、結露により画像に支障をきたすことがあります。このときは、本機を室温に2時間以上放置し、充分になじませてから設置してください。

# カートリッジについて

カートリッジは、キヤノンカートリッジE(ブラック、レッド、ブルー、グリーン、セピアの各色)およびキヤノンカートリッジE30(ブラック)をご使用ください。なお、カートリッジは消耗品ですので、トナーがなくなったときは新しいカートリッジと交換してください。

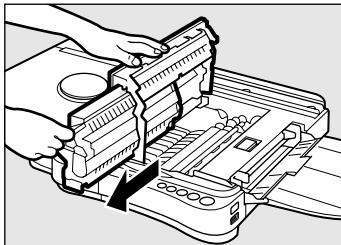
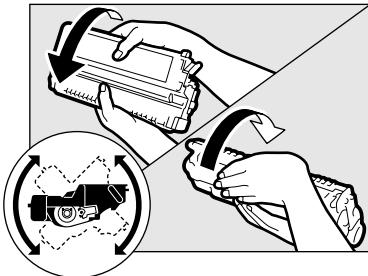
## 交換の目安

カートリッジ内のトナーが残り少なくなると、コピー面に薄い部分ができたり、白いスジが出ます。これを目安にして、完全に使い切る前に新しいカートリッジ(別売)をご用意ください。

紙の進行方向

## 新しいカートリッジに交換する前に

使用中のカートリッジを完全に使い切るために、次の作業を行ってください。なお、それでもコピー結果が変わらないときは、新しいカートリッジと交換してください。

カートリッジを本体から取り出します。

90度くらいずつ、左右に数回回転させるように傾けます。

カートリッジを本体にセットし直して、コピーを行います。

## カートリッジのコピー枚数の目安

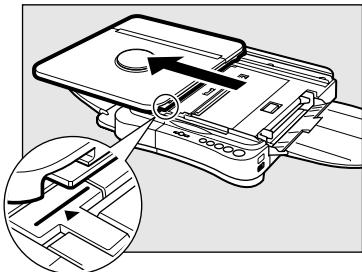
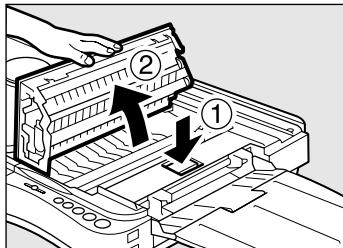
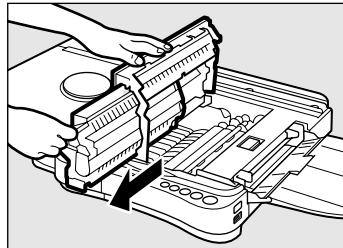
| キヤノンカートリッジE・ブラック | A4：4%原稿で約2,400枚、A4：6%原稿で約1,600枚 |
|---|---|
| キヤノンカートリッジE30 | A4：4%原稿で約4,000枚、A4：6%原稿で約3,000枚 |

A4：4%（または6%）原稿とは、A4サイズを100%とした場合に文字の部分が4%（または6%）に相当する原稿のことをいいます。本書の「はじめに」のページがA4：4%原稿の目安になっているので参考にしてください。

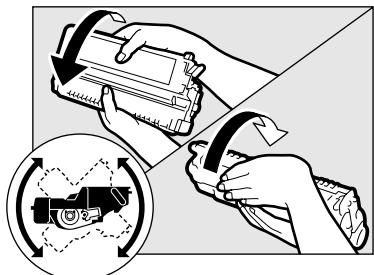
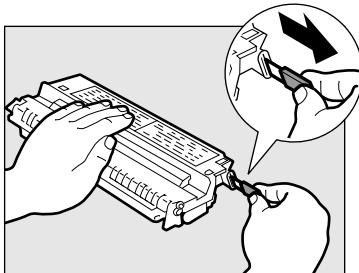
・ コピーできる枚数は、コピー濃度や使用環境（温度、湿度）、原稿の余白の量などによって変わります。

## カートリッジの交換

カートリッジは、本体の電源を切ってから取り出します。

本体の|◀マークの位置まで、原稿台を左にスライドさせます。

上カバー開閉ボタンを押して、本体と垂直になるまで手で上カバーを開きます。

カートリッジのつまみを持ち、カートリッジを引き出します。

新しいカートリッジを袋から取り出します。

注意書き面を上にして水平に持ちます。

90度くらいずつ左右に数回回転させるように傾けて、カートリッジ内のトナーの片寄りをなくします。

**カートリッジを水平なところに置き、開封シールのつまみをはがします。**
**つまみを持ちながら矢印の方向にまっすぐ引き抜きます。**

**注意**

・ シールにはトナーが付着していますので、衣服などに触れないようにご注意ください。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、よごれがとれなくなることがあります。

・ 開封シールはすべて（約50cm）引き抜いてください。

**カートリッジの注意書き面を左に向けて持ち、本体の奥に突き当たるまで静かに入れます。**

**上カバーの マークを押して確実に閉じます。**

**原稿台を中央に戻します。**
**コピーを再開するときは、電源スイッチを押して電源を入れます。**

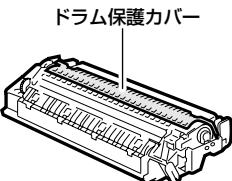
**警告**

・ 使用済みカートリッジは、火中に投じないでください。カートリッジ内部にあるトナーに引火して、やけどや火災の原因になります。

**お願い**

・ 開封シールは斜めに引かないでください。シールが途中で切れると、カートリッジは使用できなくなります。
・ カートリッジを手で上から強く押さえつけないでください。

・ 開封シールのつまみは右側に折ってあります。このつまみをはがしてからゆっくりと引き抜いてください。
・ コピーの設定後にカートリッジを交換すると、それまで設定していた内容が消えてしまいます。コピーを再開するときは、もう一度設定しなおしてください。（FC520）
・ 上カバーが確実に閉まっていないと、コピーの途中で電源が切れることがあります。
・ カートリッジの本体への挿入方向は、カートリッジの注意書き面に矢印で表示されています。

## カートリッジの取扱い

・ カートリッジは、注意書き面を上にして持ってください。またカートリッジ下部のドラム保護カバーを強く押さえたり動かしたりしないでください。
・ 分解したり、ドラム保護カバーを開いたりしないでください。
・ 寒い戸外から暖かい部屋にカートリッジを持ち込んだり部屋を急に暖房したりすると、結露と呼ばれる内部に水滴がつく現象が生じ、画像に支障をきたすことがあります。このときは、カートリッジを室温に２時間以上放置し、充分になじませてからご使用ください。

## カートリッジの回収について

キヤノンでは、地球をとりまく環境保全と資源の有効活用を行っていくために、使用済みカートリッジの回収を推進しています。
このため、ご使用済みのカートリッジは、お買い求めの販売店までお持ちくださるようにご協力をお願いします。

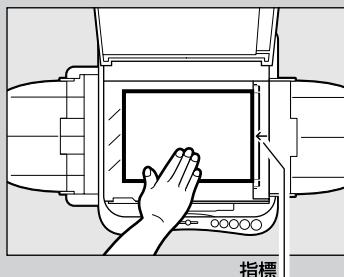
## カートリッジの保管

使用しないカートリッジは、次のようにして保管してください。

・注意書き面を上にして、お買い上げのときに入っていた袋と箱に入れ、直射日光を避けて保管してください。
・カートリッジの袋がないときは、注意書き面を上にして暗い所で保管してください。
・立てたり、上下を逆にして保管しないでください。
・幼児の手の触れないところに保管してください。
・ストーブや加湿器などの前は避けて、40℃以下で保存してください。
・望ましい保管環境は、温度２０℃～25℃、湿度40%～70%です。

# 2章 コピーのとりかた

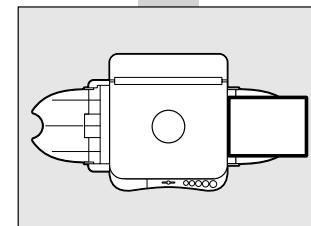
# 基本的なコピーのとりかた

基本的なコピー操作の流れを説明します。

電源スイッチを押して、本体の電源を入れます。

**FC520**

操作パネル上のコピー枚数表示に Ⓐが点灯します。

コピー用紙の幅に合わせて、給紙ガイドの位置を調節します。

給紙トレイにコピー用紙をセットします。
⇒P.30「用紙のセット」

コピー用紙の先端が本体内に突き当たるようにセットします

コピーする面を下向きにして、原稿をセットします。
⇒P.28「原稿のセット」

原稿台カバーを静かに閉じます。

**FC500**

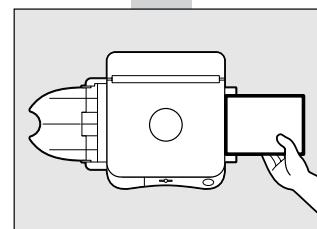
操作パネル右側のメイン表示が点灯します。

コピーする面を下向きにして、原稿をセットします。

原稿台カバーを静かに閉じます。

コピー濃度を調整します。
⇒P.29「コピー濃度の調整」

コピー用紙の幅に合わせて、給紙ガイドの位置を調節します。

コピー用紙を手差しトレイに挿入します。
自動的にコピーが始まるので、用紙が引き込まれたら手を離してください。

**標準の設定でコピーしないときは、必要に応じてコピー濃度やコピー枚数を設定します。**

標準では次のように設定されています。

・ コピー枚数：1
⇒ P.28「10 枚以上の連続コピー」

・ コピー濃度：オート濃度
⇒ P.29「コピー濃度の調整」

**◎キーを押します。**

原稿台が移動して、コピーが始まります。

コピーを途中で止めるときは、◎キーを押します。

手順 8 へ

**コピーが終わったら、原稿を取り出して電源を切ります。**

**お願い**

・ 長時間使用しないときはコンセントから電源プラグを抜いてください。

**重要**

・ 長時間立てておいた機械を使用するときは、右端、左端、中央の順に原稿台を手で移動したあとコピーしてください。

・ 紙づまりの原因になるので、しわのある用紙や大きくカールしている用紙を使用したり、コピー中に電源を切らないでください。

・ 連続してコピーする場合、前の用紙が排紙されるまで次の用紙を挿入しないでください。紙送りに支障をきたすことがあります。(FC500)

・ 電源スイッチはゆっくりと確実に押してください。

・ コピー操作終了後 5 分以上何も操作しないと、自動的に電源が切れます（これをオートパワーオフ機能といいます）。

・ 原稿台カバーを開いたままコピーすると、カートリッジ内のトナーの消耗が早くなります。

**FC520**

・ コピー用紙は、高さが5㎜（普通紙で約50枚）まで給紙トレイにセットできます。用紙は、よくさばき、四端をそろえてからセットしてください。

・ コピー枚数は、⊕キーを 1 回押すたびに 1 枚ずつセット枚数（最高 9 枚）が増えます。
⇒ P.28「10 枚以上の連続コピー」

・ セットしたコピー枚数を 1 枚に戻すときには、◎キーを押します。

・ コピーをとり終わったあと、給紙トレイに用紙をセットしたまま放置しないでください。

## 10枚以上の連続コピー（F機能）FC520

⊕キーを押し続けると9の次にFが表示され、連続コピーができるようになります(これをF機能といいます)。

10枚以上の連続コピーを設定すると、給紙トレイにセットされている用紙がなくなるまでコピーします。

重要

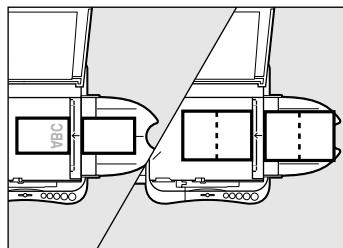
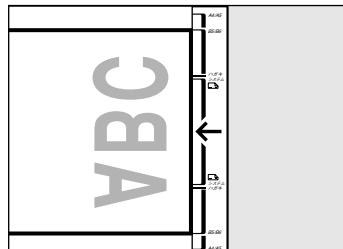
・ 紙づまりの原因になるので、コピーが10枚排紙されるごとに排紙トレイ上のコピーを取除いてください。また、給紙トレイに用紙があるときは、途中で紙を補給しないでください。

## 原稿のセット

原稿は、コピーする面を下向きにして原稿台右側にある指標に合わせてセットします。

### ⚠注意

・ 原稿台カバーは、手を挟まないように静かに閉じてください。けがの原因になることがあります。

■ 原稿サイズがAB系（A4やB5）／はがきなどの場合
上下の原稿サイズの指標に合わせてセットします。

原稿台ガラスの指標に合わせてセット

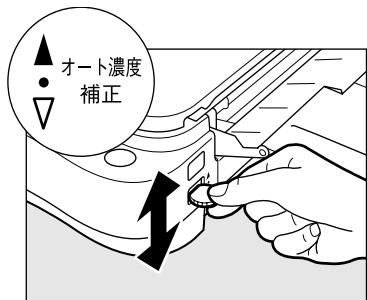
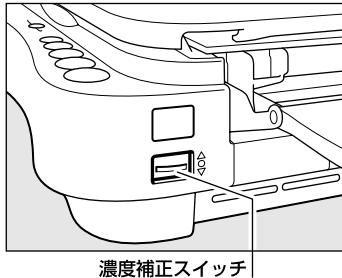
■ 原稿サイズが分からない／指標にない原稿サイズの場合
指標の中央にある“←”のマークに原稿の中央を合わせてセットします。

## コピー濃度の調整

FC520

FC520は、自動的に原稿の濃度を検知して最適な濃さでコピーするオート濃度機能を備えています。電源を入れると、オート濃度が選択されていることを示すオート濃度表示（Ⓐ）が点灯し、自動的に適切な濃さでコピーがとれます。
ただし、次のような原稿はオート濃度では鮮明にコピーがとれないことがあるので、マニュアル(手動)で濃度を調整してください。
・ 地色が濃いもの（新聞など）
・ 濃度が薄いもの（鉛筆書きの原稿など）

### 濃度補正スイッチを使って調整する

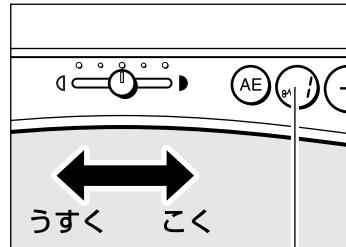
濃度補正スイッチの溝にコインなどを差し込んでスイッチを切り替えると、コピーの濃さを３段階に調整できます。

**今より濃くコピーしたいとき：**
スイッチを上に切り替える

**今より薄くコピーしたいとき：**
スイッチを下に切り替える

それでもコピーが鮮明にならないときは、次の操作をしてください。

### コピー濃度調整レバーを使って調整する

オート濃度モードを解除すると、手動で濃度調整ができます。

**AEキーを押してマニュアル濃度モードに切り替えます。**

**コピー濃度調整レバーをスライドさせて、原稿に合わせたコピー濃度に調整します。**

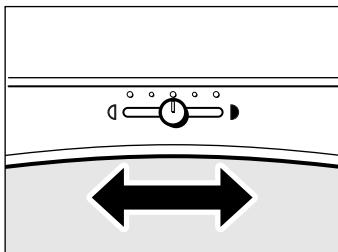
### ■ 濃度調整の目安

普通の原稿：　目盛りの中央を目安に調整します。
地色の濃い原稿：コピー濃度を薄くします。コピー濃度調整レバーを左に動かしてください。
濃度の薄い原稿：コピー濃度を濃くします。コピー濃度調整レバーを右に動かしてください。

**重要**

- オート濃度に設定しているときはコピー濃度調整レバーで濃度調整はできません。(AE)キーを押して、Aのランプが消えたことを確認してからダイヤル操作してください。なお、マニュアルで調整したときは、オート濃度を解除したままコピーをしてください。
- カラーカートリッジをご使用の際はオート濃度モードを解除し、コピー濃度調整レバーを使って濃度を調整してコピーしてください。オート濃度モードでコピーするとコピーの地に薄く色がかかる場合があります。（FC520）

**FC500**

コピー濃度調整レバーを左または右に動かして、原稿に合わせて適切なコピー濃度に調整します。

**濃くする：レバーを右へ動かす**

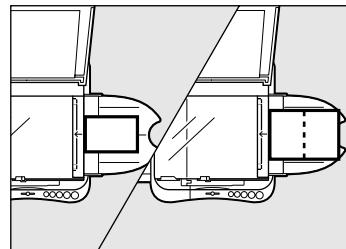
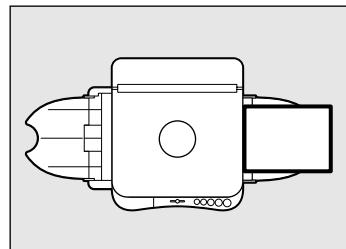
**薄くする：レバーを左に動かす**

### ■ 濃度調節の目安

普通の原稿：　目盛りの中央を目安に調整します。
地色の濃い原稿：コピー濃度を薄くします。コピー濃度調整レバーを左に動かしてください。
濃度の薄い原稿：コピー濃度を濃くします。コピー濃度調整レバーを右に動かしてください。

## 用紙について

### 用紙のセット

用紙は、コピーをする面を上にして、先端が本体内に突き当たるようにして給紙トレイにセットします。
FC500では、用紙を手差しトレイにセットすると自動的にコピーが始まります。

## 注意

・ 用紙を補給するときは、用紙の端で手を切ったりしないように注意してください。

## 使用できる用紙の種類

本機では、コピー用紙のほかに、はがき／往復はがき／OHPフィルムなどがご使用になれます。なお、市販されている用紙のなかには本機に適さないものもあるので、ご使用の際はお買い求めの販売店にご相談ください。最良な状態でコピーをするためには、キヤノン推奨の用紙や OHP フィルムをご使用ください。

## 使用できない用紙

次のような用紙にはコピーしないでください。紙づまり、印字はがれ、故障などの原因となります。

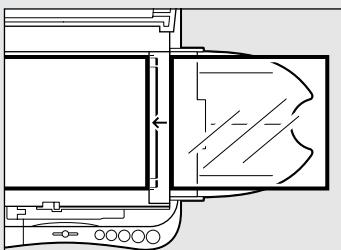
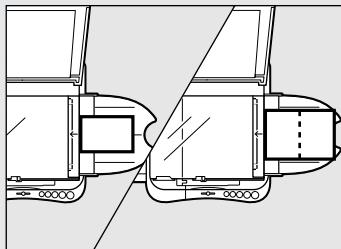
・ 大きくカールした用紙やしわのある用紙
・ 薄いわら半紙
・ デジタルカラー複写機専用の OHP フィルム
・ カラーコピーした用紙（裏面にもコピーしないでください。）
・ 熱転写プリンターで印字した用紙（裏面にもコピーしないでください。）
・ 他の複写機やプリンターで出力した用紙（裏面にもコピーしないでください）。

## 保管について

用紙を保管するときは、次のことに注意してください。

・ 用紙は、湿気が少なく直射日光が当たらない場所に保管してください。また、使いきれずに残ったコピー用紙は、湿気を避けるため包装紙に包んで保管してください。
・ 用紙は立てかけずに、水平に置いて保管してください。
・ コピーをとったあと、給紙トレイ上に用紙を置いたままにしないでください。

# いろいろなコピーのとりかた

## はがき／往復はがき／OHPフィルムへのコピー

はがき／往復はがき／OHPフィルムなど､いろいろな用紙にコピーすることができます。

**コピーする用紙の幅に合わせて、給紙ガイドの位置を調節します。**

**コピーする面を下にして原稿をセットします。**
**⇒P.28「原稿のセット」**

**原稿台カバーを静かに閉じます。**

**コピーする面を上にして用紙を給紙トレイにセットします。**
**⇒P.30「用紙のセット」**

（FC500では、手差しトレイに用紙を挿入すると自動的にコピーが始まります。）

**用紙の先端が本体内に突き当たるようにセットします。**

- 往復はがきは折り目を広げてセットしてください。
- １度にセットできるはがきの高さは５㎜までです。(FC520)
- OHPフィルムは１枚ずつセットしてください。
- OHPフィルムのコピーが自動的に始まるまで、手でささえてください。(FC500)

**◎キーを押します。((FC520)**

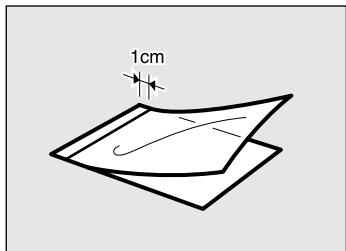
重要

- 給紙ガイドや原稿台には、往復はがき用の目盛りはありません。往復はがきなどを原稿台にセットするときは、原稿の中心を指標←に合わせてください。
- 紙づまりの原因になるので、コピーしたOHPフィルムは1枚ごとに排紙トレイから取除いてください。
- はがきにコピーするときは、必ず給紙ガイドの「ハガキ」に合わせてヨコにセットしてください。タテにセットすると紙づまりの原因となります。
- コピーと熱転写プリンタの両方ではがきなどに印字するときは、コピーを先にしてください。熱転写プリンタで印字された用紙にコピーすると、画像の汚れや、紙づまりなどの原因となります。

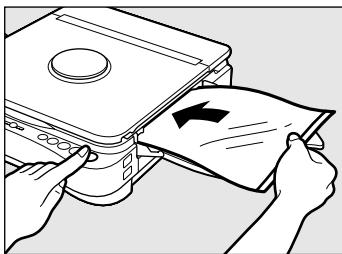
- はがきなどの厚い紙にコピーをすると、文字がかすれることがあります。
- OHPフィルムによってはコピーにムラが出るものがあります。快適な画像でコピーをとるために、OHPフィルムはキヤノンの推奨のものを使うことをおすすめします（詳細についてはお買い求めの販売店またはサービス店にご相談ください）。

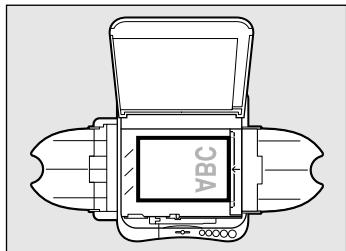
# OHP フィルムがスムーズに送り込まれないときには

給紙トレイにセットしてもOHPフィルムが本体内に送り込まれないときは、次の操作をしてください。

**紙を下敷きにして、OHP フィルムの先端を下敷きの紙より約1㎝後ろにずらします。**

**下敷きの紙の後端を重ねて持って、給紙トレイにセットします。**

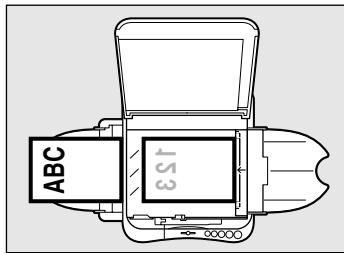
**キーを押します。**

OHP フィルムが本体内部に送られて見えなくなったら、下敷きにしてある紙だけを引き戻して取除きます。

## 用紙の両面にコピーをとる

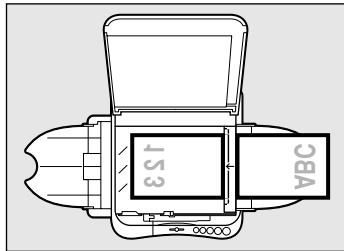
**1枚の用紙の表／裏にそれぞれコピーすることによって、用紙の両面にコピーします。**

**表面用の原稿をセットします。**

**用紙の表面にコピーします。**
⇒ P.26「基本的なコピーのとりかた」

**裏面用の原稿をセットします。**

原稿の上端を表面原稿のときと逆向きになるようにセットします。

手順2で表面にコピーした用紙を、裏返して給紙トレイにセットします。（FC520）

（FC500では、手差しトレイに用紙を挿入すると、自動的にコピーが始まります）

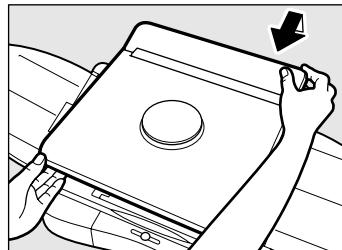
用紙は手前側と奥側を変えずに裏返します。

用紙の裏面にコピーします。

- 両面コピーには 60 ～ 128g/ ㎡の用紙を使用してください。
- 用紙がカールしているときは、よく伸ばしてからセットしてください。

- 用紙の裏面の先端が汚れたときは、給紙トレイに１枚ずつ用紙をセットしてコピーしてください。（FC520）

## 厚い本や大きな原稿からのコピー

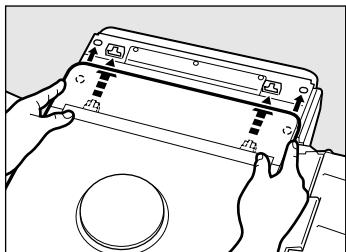
Ａ4以上の大きな原稿や厚みのあるものをコピーするときは、原稿台カバーを取り外すと原稿がセットしやすくなります。

原稿台カバーを両手で軽く５㎜程度浮かせるように持ち、原稿台カバーの右端を手前にスライドさせます。

左手で原稿台カバーを持ち上げたまま、右手で原稿台カバーの左すみを軽く持ち上げ、同じように手前にスライドさせ取り外します。

原稿を原稿台にセットして、◈キーを押します。（FC520）
⇒P.26「基本的なコピーのとりかた」

（FC500では、手差しトレイに用紙を挿入すると、自動的にコピーが始まります）

原稿台カバーの取付用の突起を本体の溝に合わせてスライドさせ、原稿台カバーのピンを原稿台カバー固定用の穴にはめ込みます。

**お願い**

- 原稿を強く押さえないでください。
- 原稿台には2kg（約1,500ページの電話帳1冊分）以上のものを置かないでください。
- コピー終了後は、必ず原稿台カバーを取付けてから閉じてください

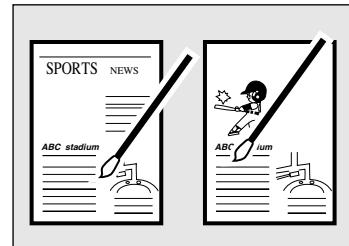
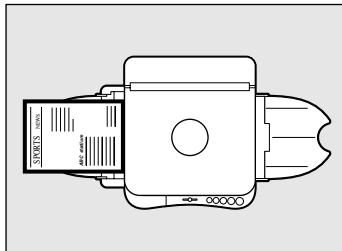
**重要**

- 原稿は左手前にあるガラスのレール部に当たらないようにセットしてください。

## 2色以上のカラーコピー

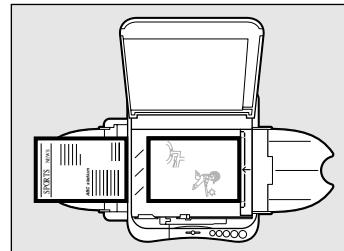
カラーカートリッジに交換すると、さまざまな色を組み合わせたカラフルなコピーができます。

ここでは、ブラックとブルーの2色コピーの作りかたを説明します。

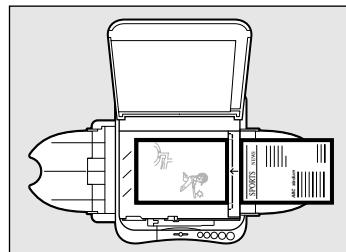
2色カラーコピー用の原稿を用意します。
2色カラー（たとえばブラックとブルー）用として原稿のコピーを2枚とり、それぞれの原稿の不要部分を修正液などで消します。

**原稿台にブラック用の原稿をセットして、コピーします。**
**⇒P.26「基本的なコピーのとりかた」**

**本体からブラック用カートリッジを取り出して、ブルーのカートリッジをセットします。**
**⇒P.21「カートリッジの交換」**

上カバーを開けると、自動的に電源が切れます。

**上カバーを閉じて原稿台を中央に戻し、電源を入れます。**

**原稿台にブルー用の原稿をセットします。**
**原稿はブラック用の原稿と同じ向きになるようにセットします。**

**ブラック用の原稿でコピーした用紙をもう一度給紙トレイにコピー面を上にしてセットして、◎キーを押します。（FC520）**

重要

- カラーカートリッジを使ってコピーする場合は、オート濃度モードを解除し、コピー濃度調整ダイヤルを使って濃度を調整してコピーしてください。

（FC500では、手差しトレイに用紙を挿入すると、自動的にコピーが始まります）
**用紙をセットするときは、用紙の向きに注意してください。**

重要

- ブラックと他の色を組み合わせてコピーするときは、必ずブラック用の原稿から先にコピーしてください。
- 単色カラーコピーには60～128g/㎡用紙を使用してください。
- カラーカートリッジを使用するたびに、必ず数回左右に交互に傾けてください。
- 用紙がカールしているときは、よく伸ばしてからセットしてください。特に3色を使ってコピーするときは、1回コピーするたびに用紙のカールを伸ばしてください。

参考

- カートリッジには、ブラックのほかにレッド、ブルー、グリーン、セピアがあります。（別売）
- カラーカートリッジ使用時に、コピーの地に薄く色がかかるときは、濃度を薄めに調整してください。

  ⇒P.29「コピー濃度の調整」
- OHPフィルムにカラーコピーをとっても、OHPで映した画像は黒くなります。
- 2色以上のカラーコピーでは、各色の位置が多少ずれることがあります。

# 3章 こんなときには

# こんな表示が出たときは

用紙がつまったり、本体に何らかの異常が起こると、操作パネルの8∿が点灯／点滅したり、コピー枚数表示に次のような数字やアルファベットが表示されます。
（FC500では、8∿のみが表示されます）

## 8∿が点滅／点灯するとき

| 状　況 | 原　因 | 処　置 |
|---|---|---|
| 8∿が点滅する | ・用紙がつまっています。 | ・つまった用紙を取り除いてください。<br>⇒P.42「紙づまりの処理方法」 |
| 8∿が点灯する（FC500） | ・本体に何らかの異常が起きています。 | ・電源スイッチを切って原稿台を中央に戻し、電源を入れ直してください。 |

## アルファベットや数字が点滅するとき FC520

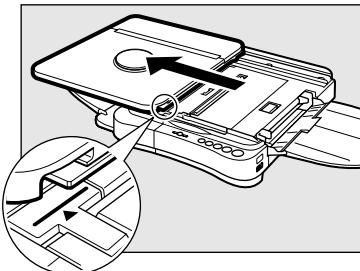
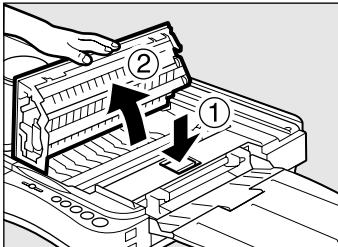
| 状　況 | 原　因 | 処　置 |
| --- | --- | --- |
| Pが点灯する | ・用紙切れです。 | ・給紙トレイにコピー用紙を補給してください。 |
| | ・給紙トレイに用紙がきちんとセットされていません。 | ・給紙トレイ上の用紙をいったん取り除き、用紙を揃えてからセットし直します。⇒P.30「用紙について」 |
| Eが表示されたあと電源が切れる | ・本体に何らかの異常が起きています。 | ・電源プラグをコンセントから抜いて、お買い求めの販売店またはサービス店にご連絡ください。 |
| Eと5が交互に点滅する | | |
| Eと9が交互に点滅する | | |
| Eと2が交互に点滅する | ・本体に何らかの異常が起きています。 | ・紙づまりがあれば取り除き、原稿台を中央に戻してコピーを再開します。 |
| 紙づまり／P表示が頻発する | ・給紙ローラーが汚れています。 | ・給紙ローラーを清掃してください。⇒P.44「給紙ローラーの清掃方法」 |

参考

・上記の処理を行っても状態が改善されないときは、「パーソナル商品修理受付票」（⇒P.51）のコピーにご記入の上、お買い求めの販売店またはサービス店にご連絡ください。

## 紙づまりの処理方法（⊗∿が点滅したとき）

⊗∿が点滅したときは､次の手順でつまった用紙を取り除いてください。

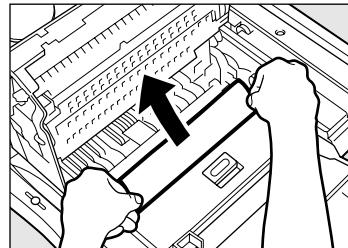
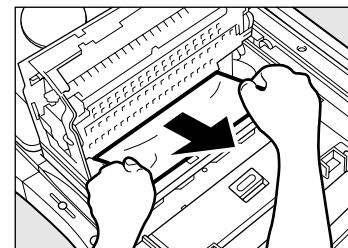
本体の|◀マークの位置まで、原稿台を左にスライドさせます。

上カバー開閉ボタンを押して、本体と垂直になるまで手で上カバーを開きます。

本体内につまっている用紙を取り除きます。
⇒「用紙の取り除きかた」

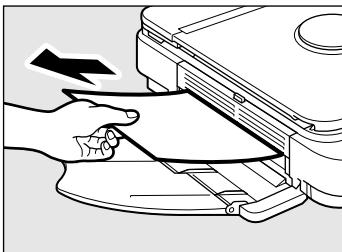
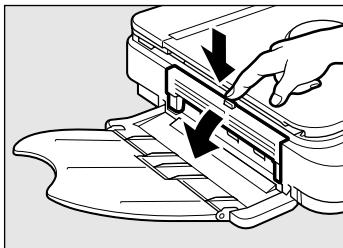
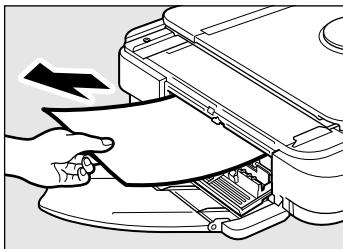
上カバーや排紙部カバーを確実に閉じます。

コピーを再開するときは、電源スイッチを押してコピー枚数を再設定してください。(FC520)

## 用紙の取り除きかた

本体内の紙づまり状態に応じて、適切な方法で紙を取り除きます。

・ 先端が見えるとき：両手で用紙の先端をもち、ゆっくりと引いて取り除きます。

・ 後端が見えるとき：両手で用紙の後端をもち、ゆっくりと引いて取り除きます。

・ 用紙の端が見えない／手が届かないとき：上カバーを閉じて排紙口から次のように処理します。

**排紙口上の用紙を、排紙方向にゆっくりと引いて取り除きます。**

**用紙が引き取りにくいときは、排紙部カバー開閉ボタンを押して排紙部カバーを開き、つまっている紙を排紙部からゆっくり引いて取り除きます。**

排紙部カバー開閉ボタンを押す。

## ⚠注意

・ 機械内部には定着器など高温、高圧になる部分があります。紙づまりの処理など内部を点検するときは、これらの部分に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になることがあります。

・ 紙づまりの処理など内部を点検するときは、ネックレス、ブレスレットなどの金属物が機械内部に触れないように点検してください。やけどや感電の原因になることがあります。

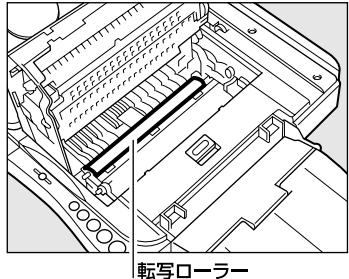
・ 紙づまりでコピー用紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしているコピー用紙の上にのっているトナーが衣服や手に触れないように取り除いてください。衣服や手が汚れます。衣服や手が汚れた場合は、直ちに水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し、よごれがとれなくなることがあります。

・ 紙づまりでコピー用紙を機械内部から取り除くときは、紙づまりしているコピー用紙の上にのっているトナーが飛び散らないように、丁寧に取り除いてください。トナーが目や口などに入ることがあります。トナーが目や口に入った場合は、直ちに水で洗い流し、医師と相談してください。

・ コピー用紙を補給するときや紙づまりを取り除くときは、コピー用紙の端で手を切ったりしないように、注意して扱ってください。

## お願い

・ なるべく上カバーを開けて本体側から紙を取り除くようにしてください。

・ 本体中央にある黒色の転写ローラーには触れないでください。

・ 本体内部の構造を傷つけることがあるので、ピンセットなどのとがったものを差し込まないでください。

重要

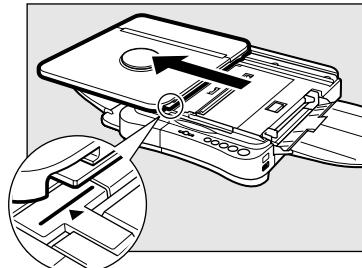
・ 本体内部に紙片を残さないようにしてください。

・ 手が汚れることがあるので、用紙を取り除くときはコピーされた部分にさわらないでください。

## 給紙ローラーの清掃方法（P表示が頻発するとき）

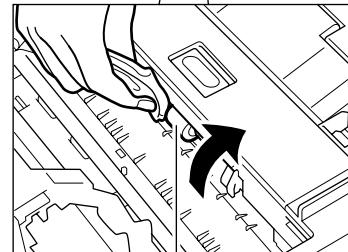
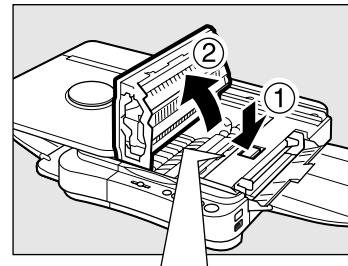
紙づまりが頻発するときは､次の手順に従って給紙ローラーを清掃してください。

**電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜きます。**

**本体の|◀マークの位置まで、原稿台を左にスライドさせます。**

**上カバー開閉ボタンを押して、本体と垂直になるまで手で上カバーを開きます。**

**給紙ローラーを矢印の方向に回転させながら布で拭きます。**

アルコール（エタノール）または水を含ませて固く絞った布を使用してください。

重要

- 給紙ローラーが完全に乾く前にコピーすると、紙づまりの原因になります。
- アルコール分を含んだスプレーは使用しないでください。

# 故障かなと思ったら

次のような症状のときは、修理を依頼する前に以下の点をもう一度確認してください。

| 状　況 | 原　因 | 処　置 |
|---|---|---|
| 本機が動かない | ・電源プラグがコンセントに差し込まれていません。 | ・電源プラグをコンセントに差し込んでください。 |
| | ・電源スイッチが入っていません。 | ・電源スイッチを押してオンにしてください。 |
| 電源が入らない／コピー中に電源が切れる | ・上カバーが開いています。 | ・上カバーの マークを押して、上カバーを確実に閉じてください。 |
| | ・排紙部カバーが開いています。 | ・排紙部カバーの中央を押して、カバーを確実に閉じてください。 |
| 画像が出ない | ・原稿がセットされていません。 | ・原稿をセットしてください。<br>⇒P.28「原稿のセット」 |
| | ・カートリッジが本体に入っていません。 | ・カートリッジをセットしてください。<br>⇒P.21「カートリッジの交換」 |
| | ・カートリッジの開封シールが抜かれていません。 | ・開封シールを抜いてください。<br>⇒P.21「カートリッジの交換」 |
| | ・濃度設定が正しくありません。 | ・濃度を調整してください。<br>⇒P.29「コピー濃度の調整」 |

| 状　　況 | 原　　因 | 処　　置 |
|---|---|---|
| 紙づまりが頻発する | ・用紙がカールしていたり、しわになっています。 | ・カールやしわのない用紙を使用してください。 |
| | ・複写機内部に紙片が残っています。 | ・紙片を取り除いてください。 |
| | ・給紙ローラーが汚れています。 | ・上カバーを開き、給紙ローラーを清掃してください。<br>⇒P.44「給紙ローラーの清掃方法」 |
| コピー面が帯状に白くなる | ・カートリッジ内のトナーが片寄っています。 | ・トナーの片寄りをなくしてください。<br>⇒P.48「コピー面が帯状に白くなるとき」 |
| コピー面が帯状に黒くなる | ・ファイバーレンズが汚れています。 | ・ファイバーレンズを清掃してください。<br>⇒P.48「コピー面が帯状に黒くなるとき」 |
| | ・結露が生じています。 | ・本機を寒い場所に放置した場合は、画像に影響が出る場合がありますので、本機を室温に2時間以上放置し、充分になじませてから使用してください。 |
| コピー面が黒くなる | ・結露が生じています。 | ・本機を寒い場所に放置した場合は、画像に影響が出る場合がありますので、本機を室温に2時間以上放置し、充分になじませてから使用してください。 |
| コピー面がうすくなる | ・本機が冷えています。 | ・本機を寒い場所に放置した場合は、画像に影響が出る場合がありますので、本機を室温に2時間以上放置し、充分になじませてから使用してください。 |

・上記の処理を行っても状態が改善されないときは、「パーソナル商品修理受付票」（⇒P.51）のコピーにご記入の上、お買い求めの販売店またはサービス店にご連絡ください。

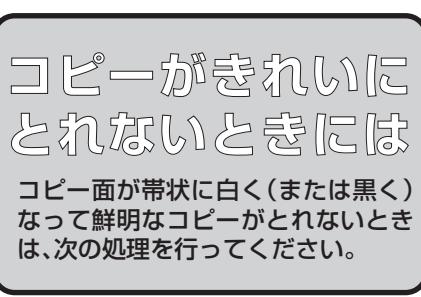
# コピーがきれいにとれないときには

コピー面が帯状に白く(または黒く)なって鮮明なコピーがとれないときは、次の処理を行ってください。

## コピー面が帯状に白くなるとき

カートリッジ内のトナーが残り少なくなり片寄ってくると、コピー面に白いスジが発生することがあります。カートリッジを本体から取り出して90°ずつ左右に数回傾け、カートリッジ内のトナーを均一にしてください。それでもコピー面が帯状に白くなるときは、新しいカートリッジと交換してください。

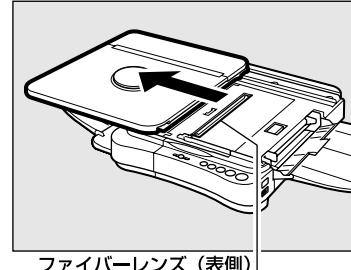
⇒P.21「カートリッジの交換」

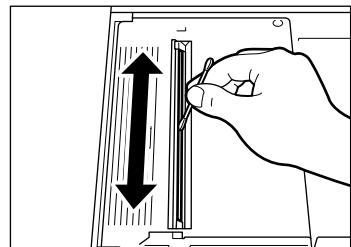
紙の進行方向

## コピー面が帯状に黒くなるとき

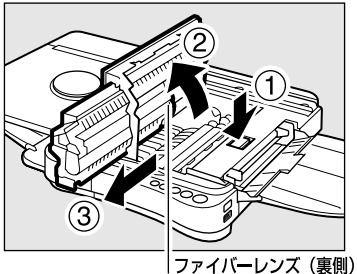
コピー面が帯状に黒くなるときは、次の手順に従ってファイバーレンズの表側と裏側を清掃してください。

### ファイバーレンズ(表側)の清掃

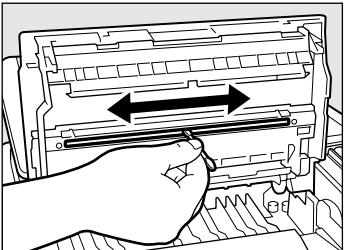
電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜きます。

原稿台を本体の|◀マークまで左へスライドさせます。

ファイバーレンズ(表側)を清掃します。

綿棒(市販)をファイバーレンズの溝に軽く押し当てて、端から端まで数回動かしてください。

## ファイバーレンズ(裏側)の清掃

**上カバーを開いて、カートリッジを取り出します。**
**⇒ P.21「カートリッジの交換」**

ファイバーレンズ(裏側)

**ファイバーレンズ(裏側)を清掃します。**

綿棒をファイバーレンズの溝に軽く押し当てて、端から端まで数回動かしてください。

**清掃が終わったら上カバーにカートリッジを入れて確実に閉じ、原稿台を中央に戻します。**

- ファイバーレンズの裏側の清掃は、市販の綿棒を使用してください。綿棒の種類によっては、溝の奥まで清掃できないことがあります。
- 清掃に使う綿棒は、アルコールなどで濡らす必要はありません。
- 上記の処理を行っても状態が改善されないときは、「パーソナル商品修理受付票」(⇒ P.51)のコピーにご記入の上、お買い求めの販売店またはサービス店にご連絡ください。

# 修理をご依頼されるときは

修理をご依頼の際は、次のページの『パーソナル商品 修理受付票』のコピーにご記入のうえコピー機本体といっしょに、お買い求めの販売店、または当社(「キヤノンお客様ご相談窓口一覧表」(P.61)をご覧ください。)までご持参あるいはお送りください。

(⇒P.56「保証および保守サービス」)

# パーソナル商品　修理受付票

お客様のお名前（フリガナ）：
ご住所：（宅配ご利用の場合は、修理後の商品を返送する住所をご記入下さい）
〒

電話番号：

製品名：　機番：
お買い上げ日：　年　月　日
故障した日：　年　月　日
保証期間：期間中／期間切れ（どちらかに○をお付け下さい）
（保証期間中の保証書は、必ず商品に添付、または商品と一緒にお持ち下さい）
故障内容：（どのようにご使用の時に）

（どのような不具合がありますか）

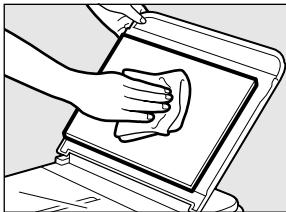
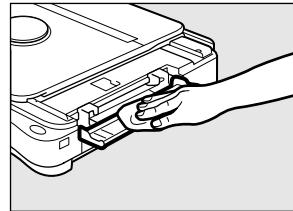
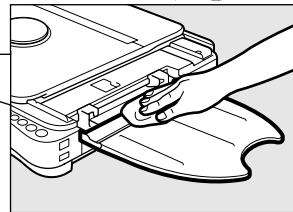
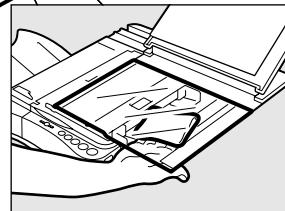
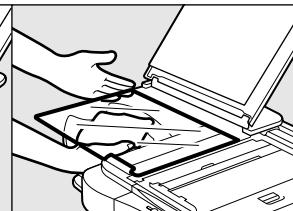
お客様からのご連絡（ご自由にお使い下さい）：

お買い上げいただいた販売店：
販売店の住所：〒
電話番号：

（切り取り線）

 ※修理受付票のスペースが狭いため、書きづらい場合には、お手持ちの用紙に上記の内容を書いていただいても構いません。

# 付録

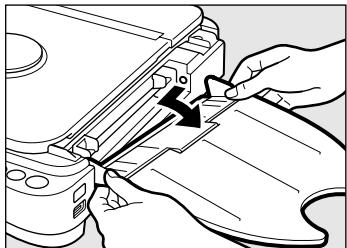
# 各部の清掃

## 日常のお手入れ

**原稿台ガラスの表面／裏面、原稿台カバー、給紙トレイ（FC500は手差しトレイ）、排紙トレイはいつもきれいにしておいてください。**

**水や中性洗剤をうすめた液に、きれいなやわらかい布を浸し、布を固く絞り汚れを軽く拭き取ってください。汚れを落としたあとは、から拭きしてください。**

■ 外装カバーを清掃するときも同様の方法で行ってください。

■ 原稿台ガラスの裏面を掃除するときは、給紙トレイを本体から外してから行ってください。給紙トレイの取り付け部を両手で持ち、内側に軽く押さえながら取り外します。（FC520）

### ⚠警告

・ 清掃のときは電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜いてください。火災や感電の原因になります。

・ 清掃のときは、中性洗剤を含ませて固く絞った布を使用してください。アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。引火性溶剤が機械内部の電気部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。

# 保証および保守サービス

## 保証書

製品には保証書が添付されています。必要な事項が記入されているかどうか確認のうえ、大切に保管してください。万一の故障のときの本体無償修理期間はご購入後１年間です。

## 保証内容

ご愛用の手引き、本体注意ラベルなどの注意書きに従った正常な使用状態で保証期間内に万一故障した場合、「パーソナル商品修理受付票」(⇒P.51）にご記入のうえ、機械本体、保証書と一緒に、お買い求めの販売店、サービス店、または当社（「キヤノンお客様ご相談窓口一覧表」を参照）までご持参あるいはお送りいただければ、無料で修理致します。この場合の交通費、送料および諸掛かりはお客様のご負担になります。なお、出張修理を希望される場合は、別途出張料金を申し受けます。
詳細は保証書の内容をご確認ください。

## 部品の保有期間

補修用性能部品（製品の性能を維持するために必要な部品）の保有期間は、本体製造打ち切り後７年間です。

## 保守サービス

本機を良好な状態でお使いいただくために、次の２種類の保守サービスを用意していますのでご利用ください（詳細は販売店にお問い合わせください)。

1 スポットサービス方式
  お客様の要請に応じて、そのつど有料で保守サービスを致します。
2 年間保守契約方式
  一定の年間保守料金で、機械（カートリッジを除く）が故障した場合の保守サービス、ならびに必要な場合の部品交換を致します。

## お問い合わせのときは

機械の故障などでサービス担当にお問い合わせの際には、51ページの『パーソナル商品修理依頼票』を参照し故障内容を詳しくお知らせください。

## お願い

・ 本機、ならびに関連する消耗品、サービス役務等につきましては、別途消費税を申し受けますのでご了承ください。
・ その他アフターサービスなどについてご不明な点がありましたら、お買い求めの販売店またはキヤノンのサービス窓口にお問い合わせください。

# 仕様

| | FC500 | FC520 |
|---|---|---|
| 形式 | ポータブル（把手つき） | |
| 原稿台方式 | 移動式 | |
| 感光体種類 | ＯＰＣ（有機半導体） | |
| 複写方式 | 間接静電転写方式 | |
| 現像方式 | 乾式一成分ジャンピング現像方式 | |
| 定着方式 | 熱定着方式（SURF 方式） | |
| 複写原稿 | 最大 A4 までのシート・ 本・ 立体物（最大２㎏まで） | |
| 複写用紙 | 紙厚：50g/ ㎡～ 128g/ ㎡紙<br>普通紙・OHP 用紙・第二原図用紙・ラベル紙・カラーペーパー・ 厚手紙（128g/ ㎡まで）・<br>郵便／私製はがき | |
| 複写サイズ | A4 ～はがきサイズ | |
| 画像欠け幅 | 先端２㎜ | |
| ウォームアップタイム | 0 秒（室温 20℃） | |
| ファーストコピータイム | 22 秒(A4 縦送り) | |
| 複写速度 | 約４枚 / 分(A4 縦送り) | |
| 複写倍率 | 1:1 ± 1.2% | |
| 給紙方式 | 手差し給紙方式 | |
| 電源 | 100V　50Hz/100V　60Hz(50Hz、60Hz 共通) | |
| 最大消費電力 | 0.7Kw 以下 | |
| エネルギー消費効率 | 4 Wh/h | |
| 大きさ(幅×奥行×高さ) | 359 × 439 × 115 ㎜ | 359 × 439 × 115 ㎜ |
| 機械占有寸法（幅×奥行） | 639 × 439 ㎜ | 813 × 439 ㎜ |
| 質量 | 約 8.5 ㎏（カートリッジ約 0.8 ㎏を含む） | |
| コピーカラー | ブラック・ レッド・ ブルー・ グリーン・ セピア（要カートリッジ交換） | |

# 付属品・消耗品

## ■ 付属品

保証書× 1
アース線× 1
カートリッジ× 1
ご愛用の手引き× 1

## ■ 消耗品

コピー用紙（詳細は販売店にお問い合わせください）
綿棒（市販）
カートリッジ

### 警告

- カートリッジを火中に投じないでください。カートリッジ内部にあるトナーに引火してやけどや火災の原因になります。

### 注意

- カートリッジ、コピー用紙は火気のある場所に保管しないでください。トナーやコピー用紙に引火してやけどや火災の原因になります。
- カートリッジなどの消耗品は幼児の手の届かないところへ保管してください。もしカートリッジ内部にあるトナーを飲んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

# 索引

## あ



## い



## う



## え



## お



## か



## き



## け



## こ



## し



## て



## と



## の

# 索引

## は



## ひ



## ふ



## ほ



## ま



## め

Canon

# キヤノンお客様ご相談窓口 一覧表

## 製品取り扱い方法、および修理に関するご相談窓口

キヤノンファミリーコピアの取り扱い方法および修理に関するご相談は、機種名をご確認のうえ、お買い上げいただいた販売店、または下記の窓口にご相談ください。

お客様相談センター
（全国共通番号） **050-555-90023**

［受付時間］　〈平日〉：9:00～20:00
〈土日祝日〉：10:00～17:00
（1/1～1/3は休ませていただきます）

※上記番号をご利用いただけない方は 043-211-9333 をご利用ください。
※上記番号はIP電話プロバイダーのサービスによってつながらない場合があります。
※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。
※消耗品はお買い上げいただいた販売店、お近くのキヤノン製品取り扱い店およびキヤノンマーケティングジャパン（株）販売店窓口にてご購入ください。
なお、ご不明な場合はお客様相談センターにご相談ください。